交付運用報告書

Asset Management One

米国インフラ関連株式ファンド＜為替ヘッジあり＞
＜愛称：グレート・アメリカ＞

追加型投信／海外／株式

受益者の皆さまへ

毎々格別のお引立てに預かり厚くお礼申し上げます。
さて、「米国インフラ関連株式ファンド＜為替ヘッジあり＞」は、2019年２月18日に第４期の決算を行いました。
当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、米国の金融商品取引所に上場する株式のうち、米国のインフラ関連企業の株式に投資し、信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行います。
当作成対象期間につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。
今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

作成対象期間 2018年８月17日～2019年２月18日

第４期	決算日：2019年２月18日	
第４期末（2019年２月18日）	基準価額	10,162円
	純資産総額	1,834百万円
第４期	騰落率	△2.0%
	分配金合計	0円

（注１）騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。
（注２）△（白三角）はマイナスを意味しています（以下同じ）。

当ファンドは投資信託約款において、運用報告書（全体版）を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、下記のホームページにアクセスし、「基準価額一覧」等から当ファンドの名称を選択いただき、ファンドの詳細ページから閲覧、ダウンロードすることができます。また、運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

■運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター 0120-104-694
（受付時間：営業日の午前９時から午後５時まで）

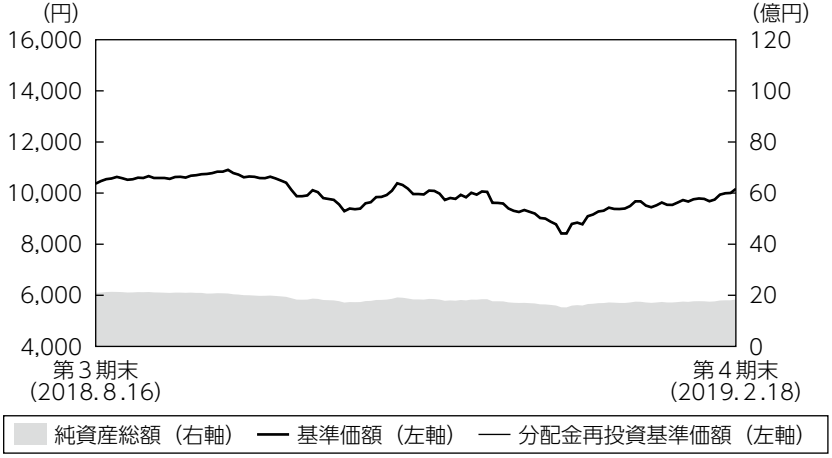
お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2　http://www.am-one.co.jp/

運用経過の説明

基準価額等の推移



第４期首：　10,371円
第４期末：　10,162円
（既払分配金０円）
騰　落　率：　△2.0%
（分配金再投資ベース）

（注１）分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
（注２）分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
（注３）分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
（注４）当ファンドはベンチマークを定めておりません。

基準価額の主な変動要因

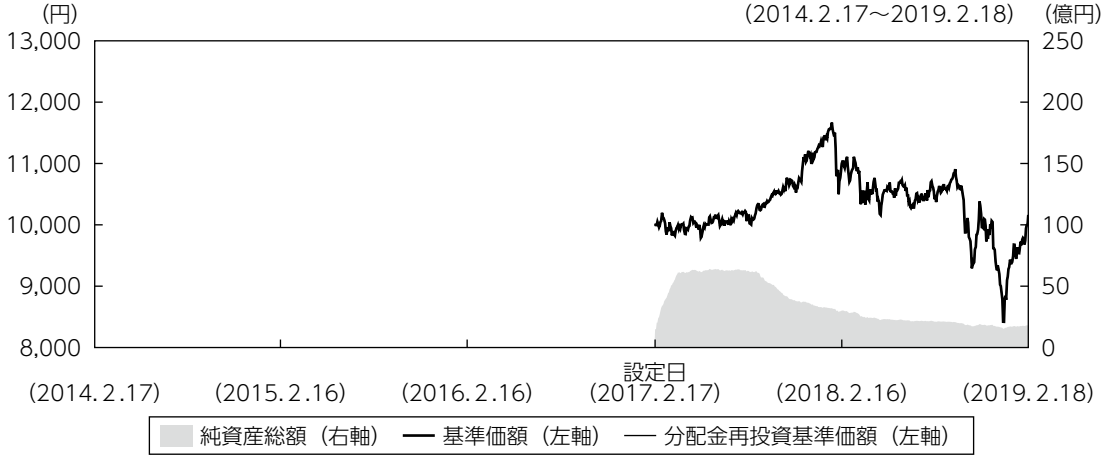
ディフェンシブ銘柄に対する選好が強まる中、公益関連などをはじめとするインフラ運営関連企業の株価が上昇したことは基準価額の上昇要因となりました。一方、米中間での貿易摩擦の深刻化への懸念や、世界的な景気減速に対する懸念の高まりなどを背景に、保有していたインフラ開発関連企業の株価が下落したことがマイナスに寄与し、基準価額は下落しました。

１万口当たりの費用明細

項目	第４期 (2018年８月17日 ～2019年２月18日)		項目の概要
	金額	比率	
(ａ) 信託報酬	85円	0.853%	(ａ) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は9,917円です。
(投信会社)	(41)	(0.413)	投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各種書類の作成、基準価額の算出等の対価
(販売会社)	(41)	(0.413)	販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託銀行)	(3)	(0.027)	受託銀行分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(ｂ) 売買委託手数料	3	0.027	(ｂ) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、組入有価証券等の売買の際に発生する手数料
(株式)	(3)	(0.026)	
(投資証券)	(0)	(0.001)	
(ｃ) 有価証券取引税	0	0.000	(ｃ) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(0)	(0.000)	
(投資証券)	(0)	(0.000)	
(ｄ) その他費用	1	0.008	(ｄ) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保管費用)	(1)	(0.005)	保管費用は、外国での資産の保管等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	(0)	(0.001)	その他は、信託事務の処理に要する諸費用
合計	88	0.888	

（注１）期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。
（注２）金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
（注３）比率欄は「１万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

最近５年間の基準価額等の推移



（注１）分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
（注２）分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
（注３）基準価額は、設定日前日を10,000として計算しています。
（注４）分配金再投資基準価額は、設定日前日を10,000として指数化しています。

	2017年2月17日 設定日	2018年2月16日 決算日	2019年2月18日 決算日
基準価額（分配落）　(円)	10,000	10,996	10,162
期間分配金合計（税引前）　(円)	－	0	0
分配金再投資基準価額の騰落率　(%)	－	10.0	△7.6
純資産総額　(百万円)	1,494	3,010	1,834

（注１）設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しております。
（注２）当ファンドのコンセプトに適した指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指標を定めておりません。

投資環境

米国株式市場は期を通じて変動性の高い展開となりました。2018年10月から年末までは、米中間の貿易摩擦が深刻化する中、貿易摩擦の影響を背景にＩＭＦ（国際通貨基金）が世界の経済成長率予想を下方修正したことや、米国での金融引き締め継続観測が高まったことなどを受けて下落しました。その後、年明け以降期末までは、米中通商協議に対する進展期待や、米国金融政策を巡る過度な引き締め懸念が後退したことなどを支援材料に上昇し、前期末と同水準で取引を終えました。

ポートフォリオについて

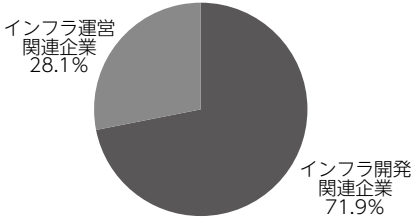
●当ファンド

米国インフラ関連株式マザーファンドの組入比率を期を通じて高位に維持するよう運用しました。また、実質組入外貨建資産に対して対円で為替ヘッジを行いました。

●米国インフラ関連株式マザーファンド

期を通じて、人々の生活に必要不可欠な設備やサービスを運営・提供する「インフラ運営関連企業」と、インフラの整備・構築等に携わる「インフラ開発関連企業」の投資比率が概ね３対７となるよう、ポートフォリオを運営しました。業種別では、金融関連の投資比率を小幅に引き下げる一方、資本財・サービス関連の投資比率を小幅に引き上げました。

○インフラ運営関連企業とインフラ開発関連企業の組入比率



※１　組入比率は有価証券評価額に対する割合です。
※２　インフラ運営関連企業とインフラ開発関連企業の区分は委託会社の分類に基づいています。

分配金

当期の収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、無分配とさせていただきました。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

■分配原資の内訳（１万口当たり）

項目		当期 2018年８月17日 ～2019年２月18日
当期分配金（税引前）		－円
対基準価額比率		－％
	当期の収益	－円
	当期の収益以外	－円
翌期繰越分配対象額		937円

（注１）「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。
（注２）当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第３位を四捨五入しています。
（注３）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

今後の運用方針

●当ファンド

引き続き、米国インフラ関連株式マザーファンドの組入比率を高位に維持します。また、実質組入外貨建資産に対して対円で為替ヘッジを行い、為替リスクの低減をめざします。

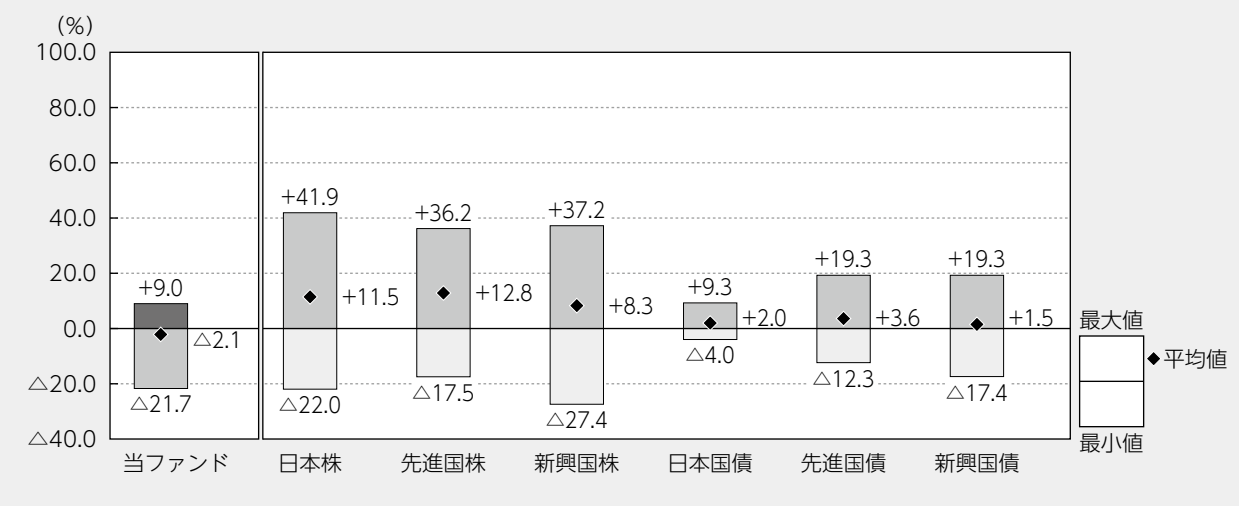
●米国インフラ関連株式マザーファンド

引き続き、米国でのインフラ投資拡大の恩恵を受ける銘柄を選別し投資を行います。米国におけるインフラの老朽化は喫緊の課題であり、インフラ建設関連のいくつかの企業において良好な業績が足元で確認できていることや、過去に連邦・州政府で導入されたインフラ投資拡大に向けた各種政策が今後顕在化し、これらの企業の業績の押し上げ要因となると考えることから、インフラ開発関連企業への配分を高めにとったポートフォリオを維持する方針です。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	2017年２月17日から2027年２月16日までです。	
運用方針	信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行います。	
主要投資対象	米国インフラ関連株式ファンド<為替ヘッジあり>	米国インフラ関連株式マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	米国インフラ関連株式マザーファンド	米国の金融商品取引所に上場する株式を主要投資対象とします。
運用方法	主として、米国の金融商品取引所に上場する株式のうち、米国の生活インフラ関連企業※1の株式※2にマザーファンドを通じて実質的に投資を行います。 ※１　生活インフラ関連企業とは、人々の生活に必要不可欠な設備やサービスを運営・提供する「インフラ運営関連企業」と、インフラの整備・構築等に携わる「インフラ開発関連企業」を指します。 ※２　米国の金融商品取引所に上場する不動産投資信託（ＲＥＩＴ）にも実質的に投資する場合があります。 「インフラ運営関連企業」と「インフラ開発関連企業」の実質投資割合は、マクロ経済環境や市場の動向等を勘案して決定します。また、個別企業の財務状況、利益成長性、株価割安度等の分析を行い組入銘柄を決定します。 マザーファンド受益証券の組入比率は、原則として高位を維持します。 実質的な組入外貨建て資産については、原則として対円での為替ヘッジを行います。	
分配方針	決算日（原則として２月、８月の各16日。休業日の場合は翌営業日。）に、経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わない場合があります。	

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



当ファンド　　：2018年２月～2019年１月
代表的な資産クラス：2014年２月～2019年１月

（注１）すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
（注２）上記期間の各月末における直近１年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。
（注３）当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとして計算しています。

＊各資産クラスの指数
日本株……東証株価指数（ＴＯＰＩＸ）（配当込み）
先進国株…ＭＳＣＩコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）
新興国株…ＭＳＣＩエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）
日本国債…ＮＯＭＵＲＡ－ＢＰＩ国債
先進国債…ＦＴＳＥ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）
新興国債…ＪＰモルガンＧＢＩ－ＥＭグローバル・ディバーシファイド（円ベース）
（注）海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞をご参照ください。

当ファンドのデータ

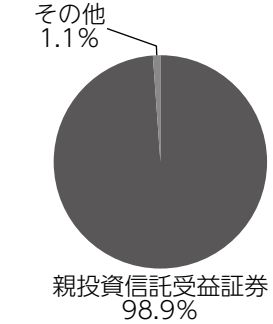
当ファンドの組入資産の内容（2019年２月18日現在）

◆組入ファンド等　　（組入ファンド数：１ファンド）

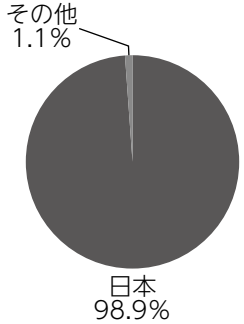
	当期末
	2019年2月18日
米国インフラ関連株式マザーファンド	98.9%
その他	1.1

（注１）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
（注２）現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

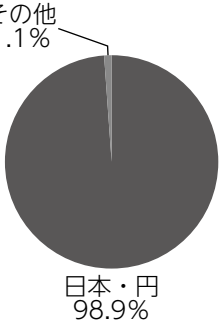
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



（注１）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
（注２）実質的な組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行っています。
（注３）現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

純資産等

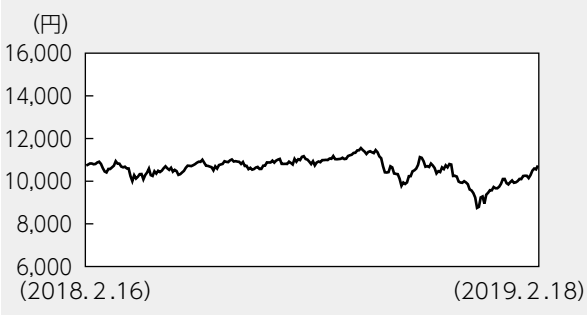
項目	当期末
	2019年2月18日
純資産総額	1,834,824,238円
受益権総口数	1,805,532,454口
1万口当たり基準価額	10,162円

（注）当期中における追加設定元本額は69,163,967円、同解約元本額は281,301,940円です。

組入ファンドの概要

［米国インフラ関連株式マザーファンド］　（計算期間　2018年２月17日～2019年２月18日）

◆基準価額の推移



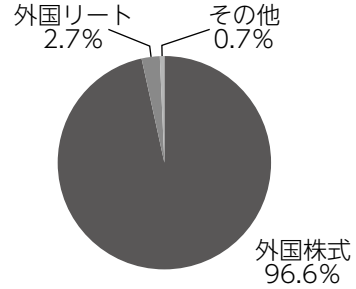
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
UNITED RENTALS INC	アメリカ・ドル	5.8%
WASTE MANAGEMENT INC	アメリカ・ドル	5.7
GRANITE CONSTRUCTION INC	アメリカ・ドル	5.6
TETRA TECH INC	アメリカ・ドル	5.3
AECOM TECHNOLOGY CORP	アメリカ・ドル	5.2
XYLEM INC	アメリカ・ドル	5.2
NEXTERA ENERGY INC	アメリカ・ドル	4.2
CATERPILLAR INC	アメリカ・ドル	4.0
VULCAN MATERIALS CO	アメリカ・ドル	3.5
COLUMBUS MCKINNON CORP/NY	アメリカ・ドル	3.4
組入銘柄数	37銘柄	

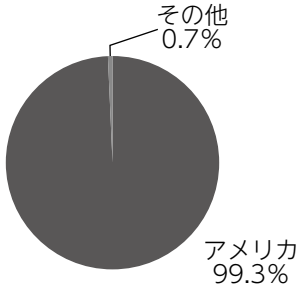
◆１万口当たりの費用明細

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料	7円	0.062%
(株式)	(6)	(0.059)
(投資証券)	(0)	(0.003)
(b) 有価証券取引税	0	0.001
(株式)	(0)	(0.001)
(投資証券)	(0)	(0.000)
(c) その他費用	1	0.012
(保管費用)	(1)	(0.012)
(その他)	(0)	(0.000)
合計	8	0.075

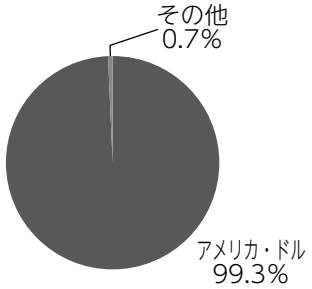
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



（注１）基準価額の推移、１万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。
（注２）１万口当たりの費用明細の金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。比率欄は「１万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額（10,581円）で除して100を乗じたものです。なお、費用項目の概要及び注記については２ページ（１万口当たりの費用明細）をご参照ください。
（注３）組入上位銘柄、資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。
（注４）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
（注５）現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。
（注６）国別配分は発行国（地域）を表示しています。
（注７）計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

●「東証株価指数（ＴＯＰＩＸ）」は、東京証券取引所第一部に上場されているすべての株式の時価総額を指数化したものです。同指数は、株式会社東京証券取引所（㈱東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、㈱東京証券取引所が有しています。

●「ＭＳＣＩコクサイ・インデックス」は、ＭＳＣＩ　Ｉｎｃ．が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はＭＳＣＩ　Ｉｎｃ．に帰属します。また、ＭＳＣＩ　Ｉｎｃ．は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

●「ＭＳＣＩエマージング・マーケット・インデックス」は、ＭＳＣＩ　Ｉｎｃ．が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はＭＳＣＩ　Ｉｎｃ．に帰属します。また、ＭＳＣＩ　Ｉｎｃ．は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

●「ＮＯＭＵＲＡ－ＢＰＩ国債」は、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

●「ＦＴＳＥ世界国債インデックス（除く日本）」は、ＦＴＳＥ　Ｆｉｘｅｄ　Ｉｎｃｏｍｅ　ＬＬＣにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はＦＴＳＥ　Ｆｉｘｅｄ　Ｉｎｃｏｍｅ　ＬＬＣの知的財産であり、指数に関するすべての権利はＦＴＳＥ　Ｆｉｘｅｄ　Ｉｎｃｏｍｅ　ＬＬＣが有しています。

●「ＪＰモルガンＧＢＩ－ＥＭグローバル・ディバーシファイド」は、Ｊ．Ｐ．モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はＪ．Ｐ．モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

Asset
Management
One